



夢ひょうたん号出航

大阪・サンフランシスコ
姉妹都市50周年記念航海



大阪国際交流センターラジオクラブ

大阪市ーサンフランシスコ市 姉妹都市
50周年記念局開局

8N3OSA 8J3SF



伴走艇の見送りを受けて



いよいよ出航
離岸

5月19日午後
関市長のメッセージと
学童の絵画を携えて
「夢ひょうたん号」は
サンフランシスコへ1ヶ月の
航海に出発しました



CNの旅 I

JH3AEF 東條純一

旅の出発点カサブランカに着いたのは夜も遅くなって10時を過ぎていた。Tはパリでの乗り継ぎの待ち時間に盛んに携帯電話で現地と連絡をとっていた。かいあってかカサブランカの空港では難なく3人のドライバーとTの娘婿に出会うことが出来た。娘婿は我々とあまり変わらぬ背丈だがスマートな体格、肌は浅黒くちぢれた髪の毛を短く整え、いつも笑みを浮かべ、いかにも気立ての優しい青年であった。奥さんの影響か、彼だけはダンディーなジャケットにタートルネックのセーターを身につけている。三人のドライバーはいづれも見パンチパーマを思わせるようなちぢれ髪で、一人は見るからに屈強そうな大男、一人は上背はそれほどでもなくでっぷりしてその腕っ節の太いこと、残る一人は薄暗ければ表も裏も分からぬほど黒光りする肌の色、すらっと背が高く顔に童顔の残る好青年、アフリカ版タイガーウッズ？いやそれ以上かも、いずれもジーンズ姿。とにかくホテルへと早速3台のランドクルーザーに分乗、車は走りだした。各人の仕事分担はまずは配車係の仕事から順調にすべりだした。

ホテルまで道路にさほどの違和感はなかったが出会う車は少なく、市街地に入っても人の姿は殆ど見られない。家々の明かりも全くと言っていいほど見られない。家並みを見ると割合閑静な住宅街か、塀もあり庭には木々も植えられている。建物は全てがコンクリート？いや漆喰作り？そんな建物に明かりが見られなければ、日本人の感覚では建てかけて投げ出された倒産建築？未だ日付けが変わっているわけでもないのにと思っているうちにホテルに到着。ホテルはヨーロッパ調のなかなかのホテルで一安心。役割分担は始まったばかりだが順調に機能して無駄なく就眠とあいなった。この度の旅の目的はT親子が久方ぶりの再会をはたすこと、その他大勢はそれに便乗するかたちで出来る限り多くを見てやるというのが狙いである。メンバーも気心の知れた者ばかり、そこには何の遠慮の入る余地もない。ただただ担当者の指示に従ってSKDを淡々とこなすための行動が始まった。

12月28日午前5時前に目が覚めた。何処からとも無く、しかしかなり大音量であのコーランのお祈りが聞こえてきたからである。あの音の多くはオーバーモジと思うのは私だけか。そう、ここは最果ての国モロッコなのだ。すなわち中東、AFの地中海側の国々から見れば太陽の沈む国なのである。そして国民の9割近くは敬虔なイスラム教スンニ派の人達なのだ。あまり勉強もしないままに「行きます」と手を上げた私にとって、承知はしていたものの認識を新たにした瞬間であった。となると娘婿も、、なるほど名前は代表的なアラブ人の名前、そして彼等の世界に飛び込み彼等と生活を共にし、彼との結婚を決意した日本の若い女性医師、そして今、そのカップルにエールを贈るためにはるばる飛行機を乗り継いでやって来た父と母。人の世の、時に大きく、激しく、また時によどみ、時に渦巻き、しかし流れ続ける移ろいのようなものを頭の中でぼんやりと感じながらモーニングコールが鳴るのを待っていた。



昨夜は恐ろしいほど暗かった町並みも、朝日の中では活気ある街に変身していた。カサブランカは如何にも有名であるがゆえに良く首都と間違えられる。しかし首都はラバト、カサブランカからは約100Kmほど東、いずれも地中海には面せず大西洋沿岸の都市なのだ。

さて現在モロッコは王政をとる立憲君主国CNである。しかし1830年代にはフランスの、その後スペインの支配をも受けた時代があった。第二次大戦後独立を勝ち取ることが出来たのだが、国の地中海沿岸、スペインに最も近い部分に未だにEAが支配する都市国家的地域EA9-EH9 Ceuta&Melilla が現存する。また現モロッコ王国の南西部に隣接する、我々にはおなじみの西サハラ地域は1975年にEAが返還を決めた際、モロッコからの独立を宣言し、今も国連の紛争地域に指定されている。0H2BH等は1987年にその地でS01AとS0RASDを運用、ARRLは1988年これをDXCCに承認した。その後S01EAやS01LYNX等がオンエアし承認されてきたが、1995年、国連駐留軍司令官の承認した4Uを冠する局の運用のみが正式の西サハラからのものとアナウンスされた。しかし昨年、一昨年の運用では再びS01MZ, S09AやS01RのCALLSIGNが使用されている。

通り一遍の観光旅行でその国の実情を正しく判断するのは軽率に過ぎるが、どう見ても国民が等しくHAMを楽しむことの出来る状態ではないように映った。

そのことはDXing誌の運用記録を見ても明白であり、今春のJA7AYE保坂氏の訪問記にもうかがえる。運用記録の多くのものが国外ハムによる、しかもCONTEST運用であり、W, EA, F, HB等のOpが多い。なかでもCN2R by W7EJ Jimの巨大ステーションには目を見張るものがある。私も何枚かのQSL CARDSを鞆にしるばせてはいたが、ついに誰ともEYEBALL Qの機会は訪れなかった。カサブランカからラバトに向かう高速道路わきにかなり大型の八木アンテナが上がっているのにただ一回出くわしたのみであった。

「上を向ういてあ歩くーおおーお、、、」皆さんこの言葉の実行派ですよ！
私なんかお墨付きの実行派です。ハムらしいアンテナは無いかとね Hi



九分:台湾映画"悲情城市"のロケ地
台北-電車30分-基隆-バス40分-九分



九分から海を望む

旅の写真 TAIWAN

JA3PYC 山本哲夫



故宮博物院
翡翠のキャベツを見ました



MRT
台北の綺麗な地下鉄



台北101からの風景
南側



台北101 508m
上までわずか40秒!

大阪国際交流センター・ラジオクラブ
Osaka International House Radio Club
e-mail: ji3zag@ja3.net

Newsletter, Web,
<http://ja3.net/ihouse>

Rollcall @14.155MHz
Every Saturday 0000UTC

Monthly meeting
on the 2nd Friday